**平成26年度事業計画**

資料１

平成２６年度の金谷美術館の主な事業計画

美術工芸の知識及び向上を図るための展観事業計画（定款第４条第１号）

平成２６年度の展観事業として、以下の展観事業を実施する。美術展を通じ、美術品観賞することによって優れた美術文化の中で、感性を磨き、想像力の有る若い力を育てるために、地域の街づくり、地域文化と地域起業家を育て元気ある街づくりの実現に向けて企画展を計画している。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 事業目的等 | | 展示予定期間 | 事業概要 |
| 趣旨・目的 | 展観事業の名称等 |
| （１）地域の美術館として限られた展示面積の中で、良質な作品を展示することにより地域住民に芸術的な素養と豊かな感性を醸成し、うるおいのある生活を営むことができるよう地域社会等に寄与することを目的とする。  （２）地域内の小・中学生の情操教育に寄与するとともに健全な芸術的感性を養育することを目的とした展観事業である。 | **１展観の名称**  上野の森美術館　大賞展vol.1  入館予定者数  （1,000名） | 2014・2・1～  5・6  営業日数83日 | 主な展示作品等  　上野の森美術館では、将来の日本の美術界をになう、個性豊かな作家を顕彰助成する「上野の森美術館絵画大賞」を昭和58年に制定し、以来毎年作品の公募を行っており、開催されたコンクール展で受賞した作品を金谷美術館で展示する。作家はコンクール受賞者以外にも安井賞受賞した作家や、美術大学において後進の指導し活躍している作家もいる。 |
| **２展観の名称**  上野の森美術館　大賞展vol.2  入館予定者数（3,100人） | 2014・5・10  ～  8・24  営業日数92日 | 主な展示作品等  　vol.1に引き続き上野の森美術館のコレクションから各団体展で活躍し、注目されている作品の展示を行う。 |
| **３ 展観の名称**  上野の森美術館　大賞展vol.3　＋　田所雅子　個展  入館予定者数（2,700人） | 2012・8・30  ～  11・30  営業日数80日 | 第1回金谷美術館コンクール展で大賞を受賞した田所氏による個展。  展示場所のメインは本館第2展示室。その他の展示室は引き続き上野の森美術館の作品を展示。田所氏の個展だけではPRとしては弱いが、上野の森美術館の作品を展示し名前を使用することで広報を強化する。 |
| **４ 展観の名称**  第2回金谷美術館コンクール展  入館予定者数（3,000人） | 2014・12・6  ～  2015・1・25  営業日数47日 | 公募数目標600点（1点1万円）  昨年に続き、第2回金谷美術館コンクールを開催。近隣地域や審査員の先生方のお弟子さん等からの参加者を募る。募集にあたっては上野の森美術館に運営のノウハウを指導してもらう。 |
| **５ 展観の名称**  収蔵品展  入館予定者数（2,000人） | 2015.1.31  ～  4.12  営業日数62日 | 新しく収蔵した立体や絵画の展示。現役の作家の場合は、その作家オリジナルのワークショップ（水彩教室や鋸山スケッチなど）を展開し、作家からも金谷美術館をPRしてもらう。 |

２ 関連事業

a)ミュージアムコンサートの実施

　美術館の展示室をコンサートホールとして活用し現役音大生等を招へいしミュージアムコンサートを開催する。美術品のみならず素晴らしい演奏を通じ地域の芸術振興に寄与する。

b)美術工芸の教育及び普及のための事業」及び「地域社会の振興（街づくり）の調査研究及び文化活動の事業」等が企画、実施される予定である。具体的な事業内容については、作業を進めて行く。

３その他の主な事業計画

　金谷美術館が今後、展観事業を円滑に推進して行くためには、乗り越えなければならないハードルである。これらの問題や課題は多くの展観事業者の共通した課題でもある。ボランティアや多くの協力者の力と知恵と適切な助言と指導を得ながら、前年度と同様に真摯に取り組んで参りたい。

（１）ボランティアスタッフを活用した運営体制の確立

（２）寄付・募金事業の推進

（３）入館者の倍増

（４）会員獲得のための事業の推進

（５）財務基盤の確立のための支援と協力

（６）広告宣伝活動

　　① 関係行政機関及び団体・企業に対するご案内

　　②千葉県民や対岸の横浜・横須賀に対するPR活動